



2018年度 決算総括と2019年度 業績予想

2019年5月29日

古河電池株式会社

取締役常務執行役員 福原 滋

Contents

01

18年度 決算総括

02

19年度 業績予想

03

補足資料

01

18年度 決算総括

18年度決算を振り返って

- 売上高は過去最高を達成。営業利益・経常利益は前年度・計画ともに未達。当期純利益は想定通り
- 海外売上高比率は、タイ子会社（SFC）の堅調な推移により前年度比増

	17年度実績	18年度通期計画 (2018.5公表)	18年度実績	増減率 (対前年度)	増減率 (対計画)
売上高	60,536百万円	64,000百万円	63,600百万円	+5.1%	△1.0%
営業利益	2,980百万円	3,200百万円	2,801百万円	△6.0%	△12.5%
経常利益	2,810百万円	3,000百万円	2,698百万円	△4.0%	△10.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,136百万円	2,200百万円	2,267百万円	+6.1%	+3.0%
海外売上高比率	34.9%	—	35.5%	+0.6pt	—

18年度決算 ハイライト

連結業績

国内外での自動車用電池の販売好調により増収。営業利益は、インドネシア子会社（FIBM）の低調、物流コストの上昇および産業分野での製品構成の変化等により減少

売上高 :	63,600 百万円	前年度比	5.1% (3,064百万円) 増
営業利益 :	2,801 百万円	前年度比	6.0% (178百万円) 減

■ 自動車事業

- 日本 :
環境対応車用鉛蓄電池の
取り換え需要旺盛
- インドネシア(FIBM):
売上高は前年度比 +30%
- タイ (SFC) :
売上高は前年度比+4.3%
営業利益は+24%

■ 産業事業

- 中国鉄道向けが好調
- 国内産業鉛、電源は予算下振れ



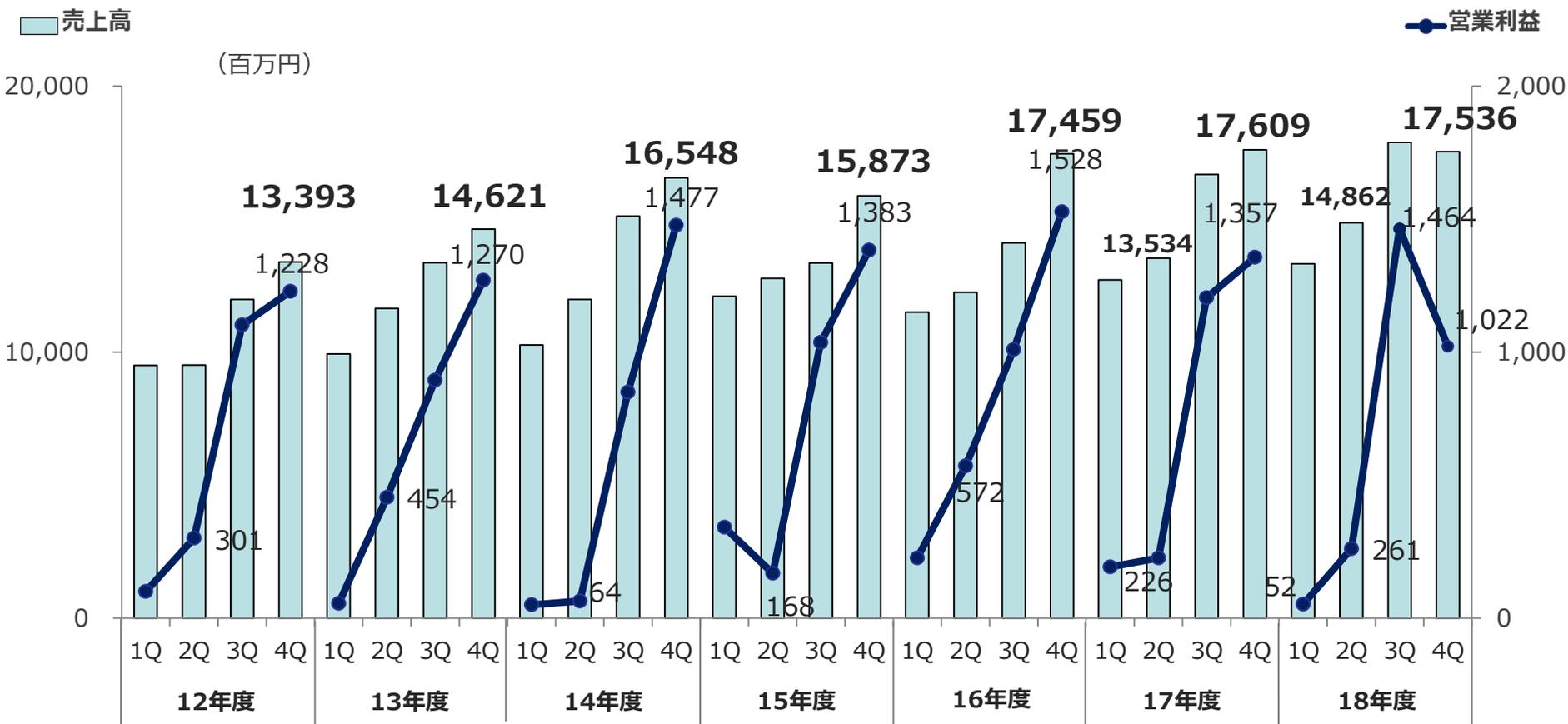
連結決算概況

- 国内外で自動車用電池の販売が堅調に推移したことなどにより増収も、インドネシア子会社（FIBM）の低調、物流コストの上昇および産業分野での製品構成の変化等により営業利益・経常利益は減少

(単位：百万円)	18年度			17年度	
	実績	対売上	前年度差 (増減)	実績	対売上
売上高	63,600	100.0%	3,064	60,536	100.0%
売上原価	49,423	77.7%	2,566	46,856	77.4%
売上総利益	14,177	22.3%	497	13,680	22.6%
販売費及び一般管理費	11,375	17.9%	676	10,699	17.7%
営業利益	2,801	4.4%	△ 178	2,980	4.9%
経常利益	2,698	4.2%	△ 112	2,810	4.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,267	3.6%	130	2,136	3.5%

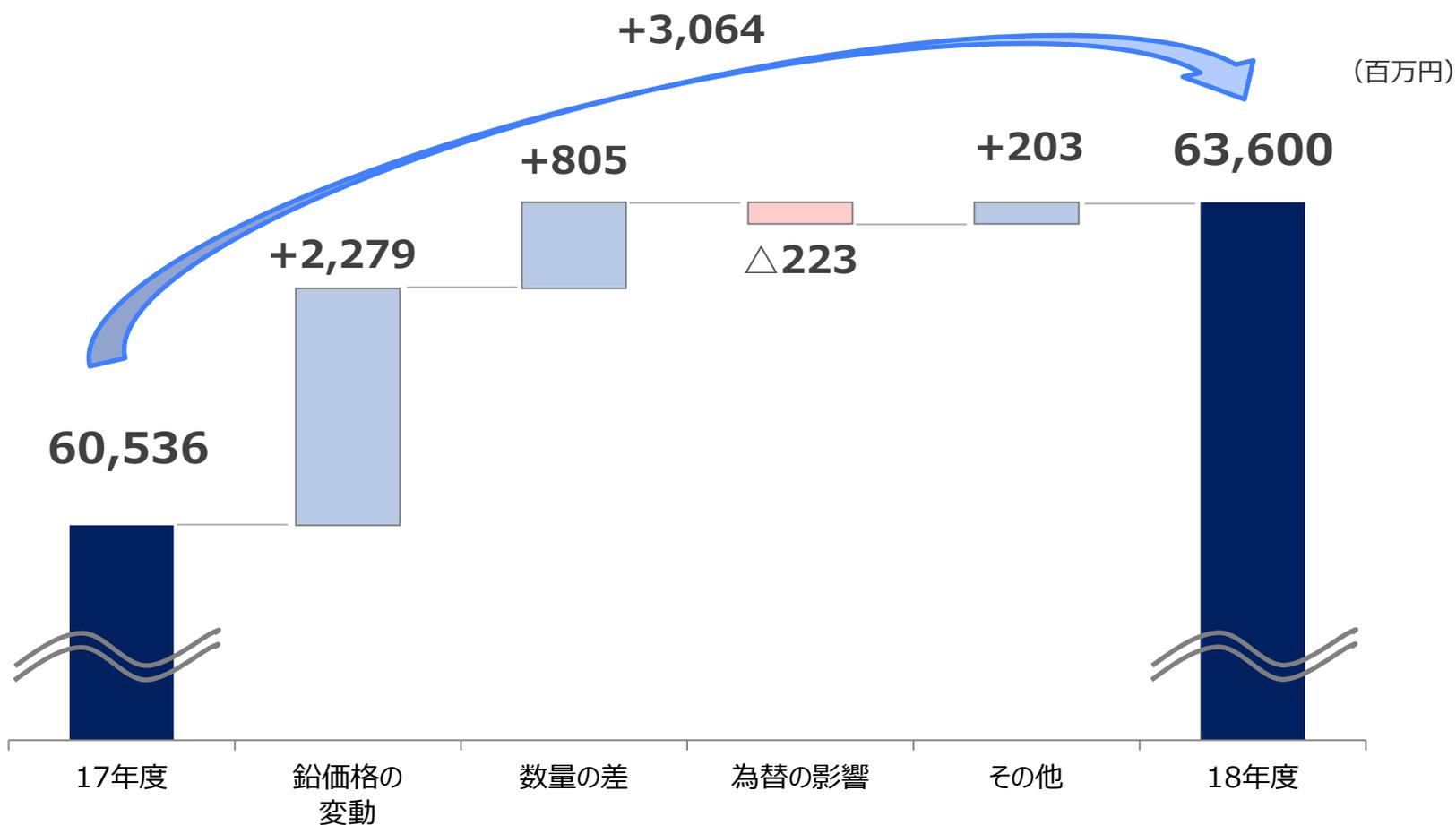
売上高・営業利益の推移_四半期

- 国内外で自動車用電池の販売が堅調に推移したことなどにより増収も、インドネシア子会社（FIBM）の低調、物流コストの上昇および産業分野での製品構成の変化等により減益
- 4Q減益は、FIBMでの会計処理によるもの



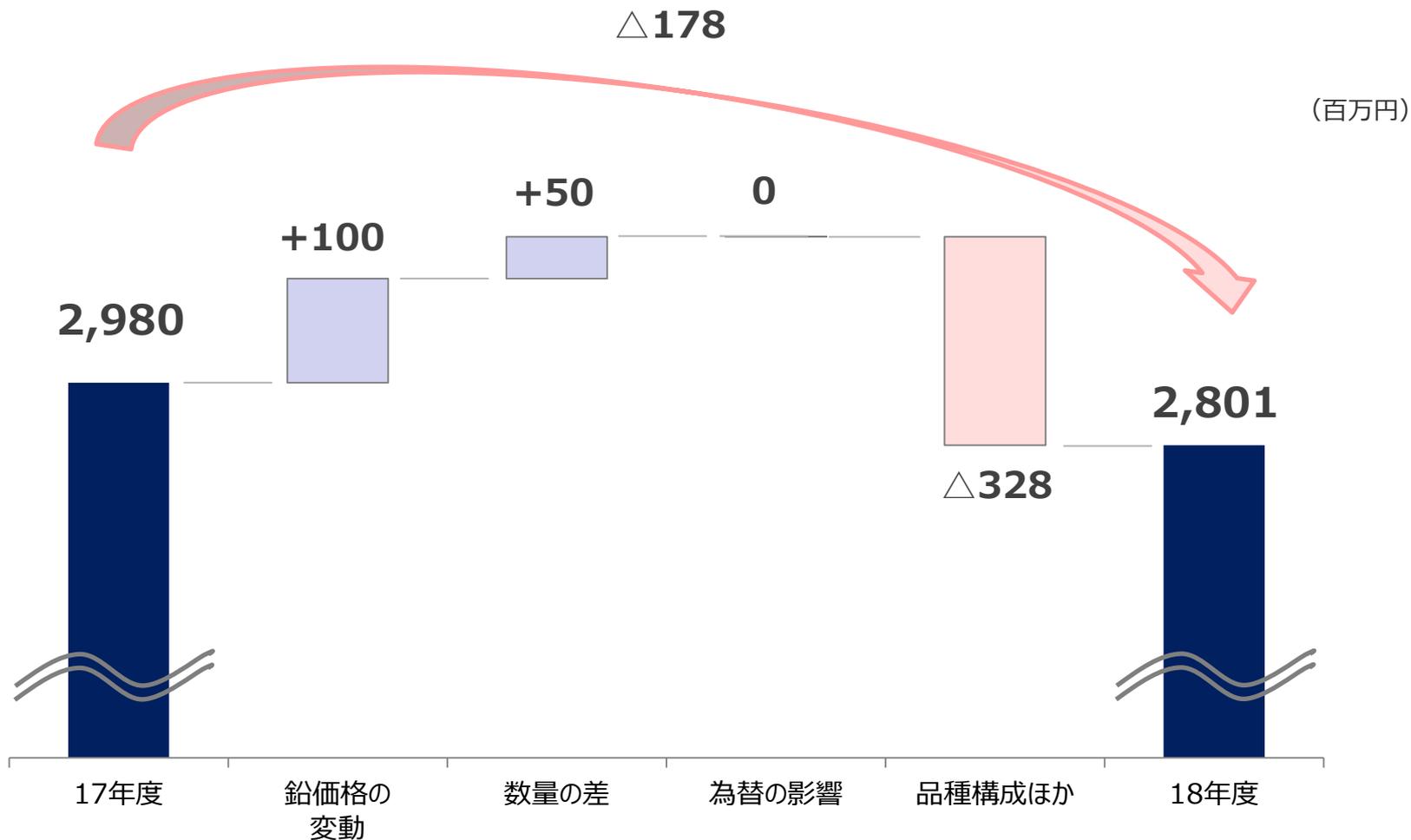
売上高 増減分析

■ 国内外で自動車用電池の販売が堅調に推移したことなどにより増収



営業利益 増減分析

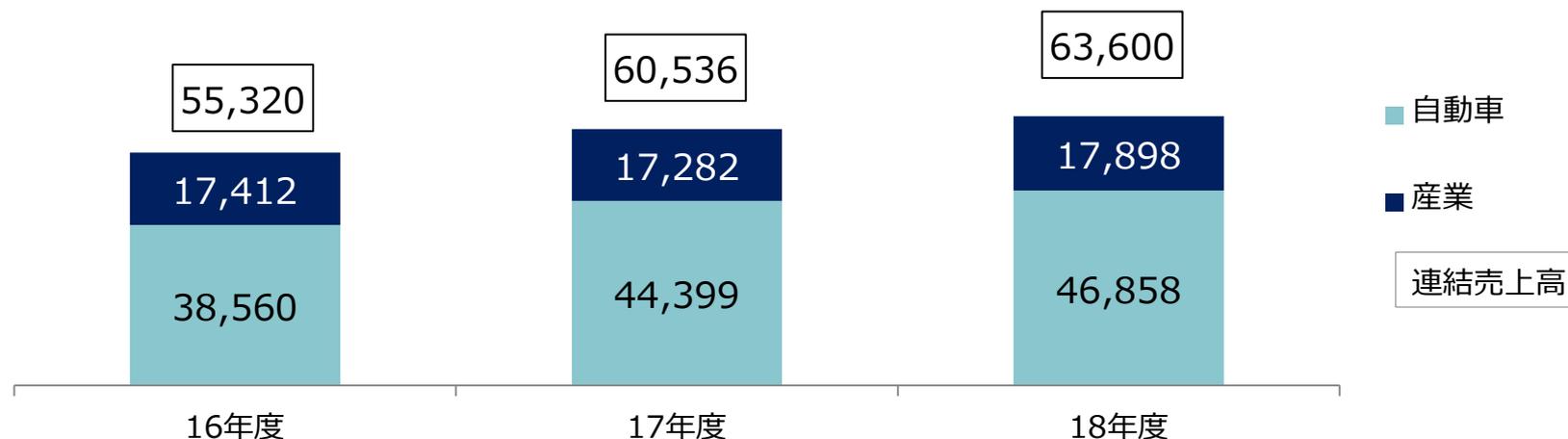
■ インドネシア子会社（FIBM）の低調や産業分野の利益率低下などにより減益



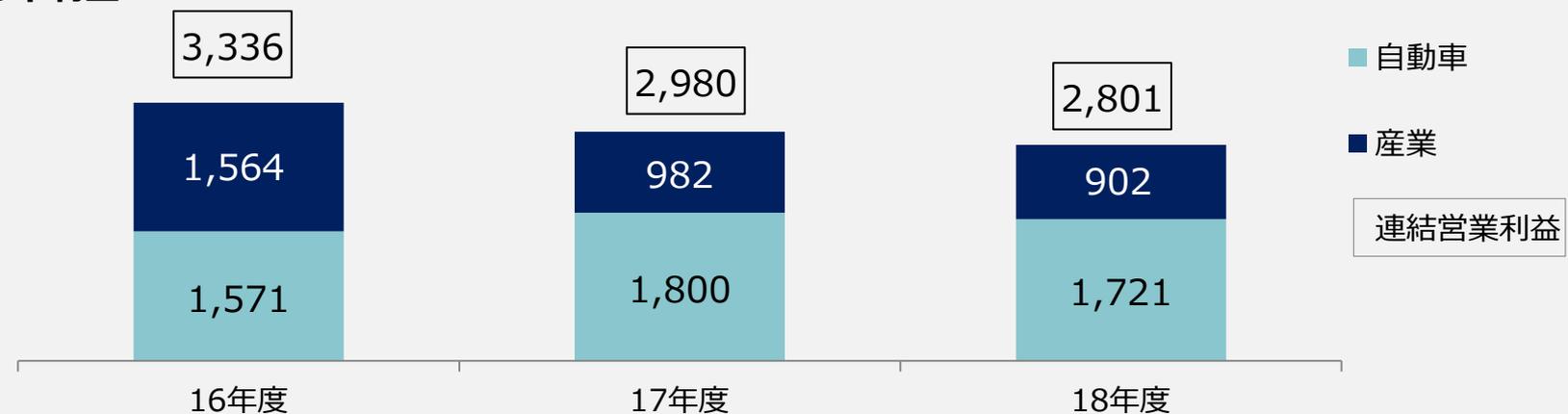
連結決算概況_セグメント別

◆セグメント別 売上高

(百万円)



◆セグメント利益

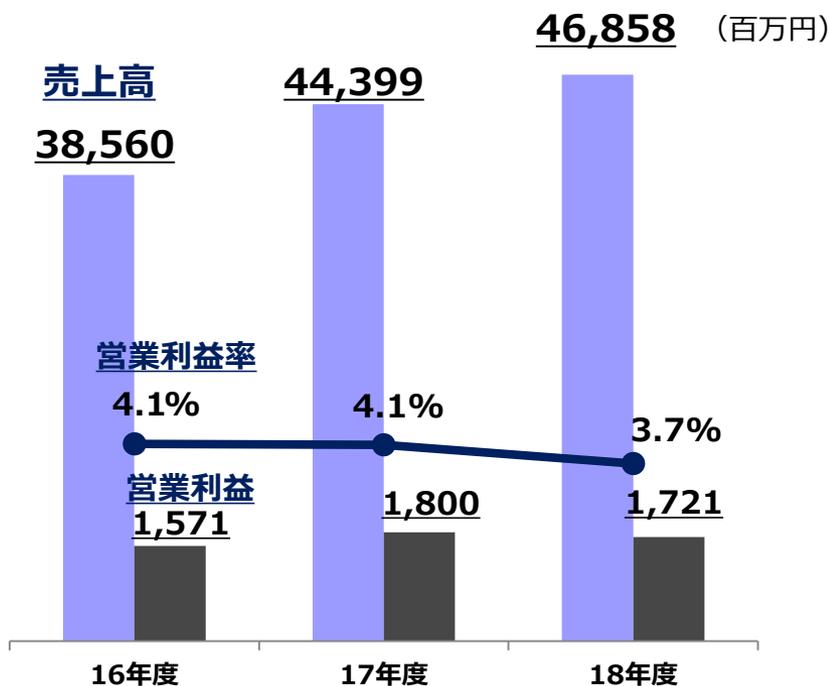


自動車セグメント 決算概況

自動車 セグメント

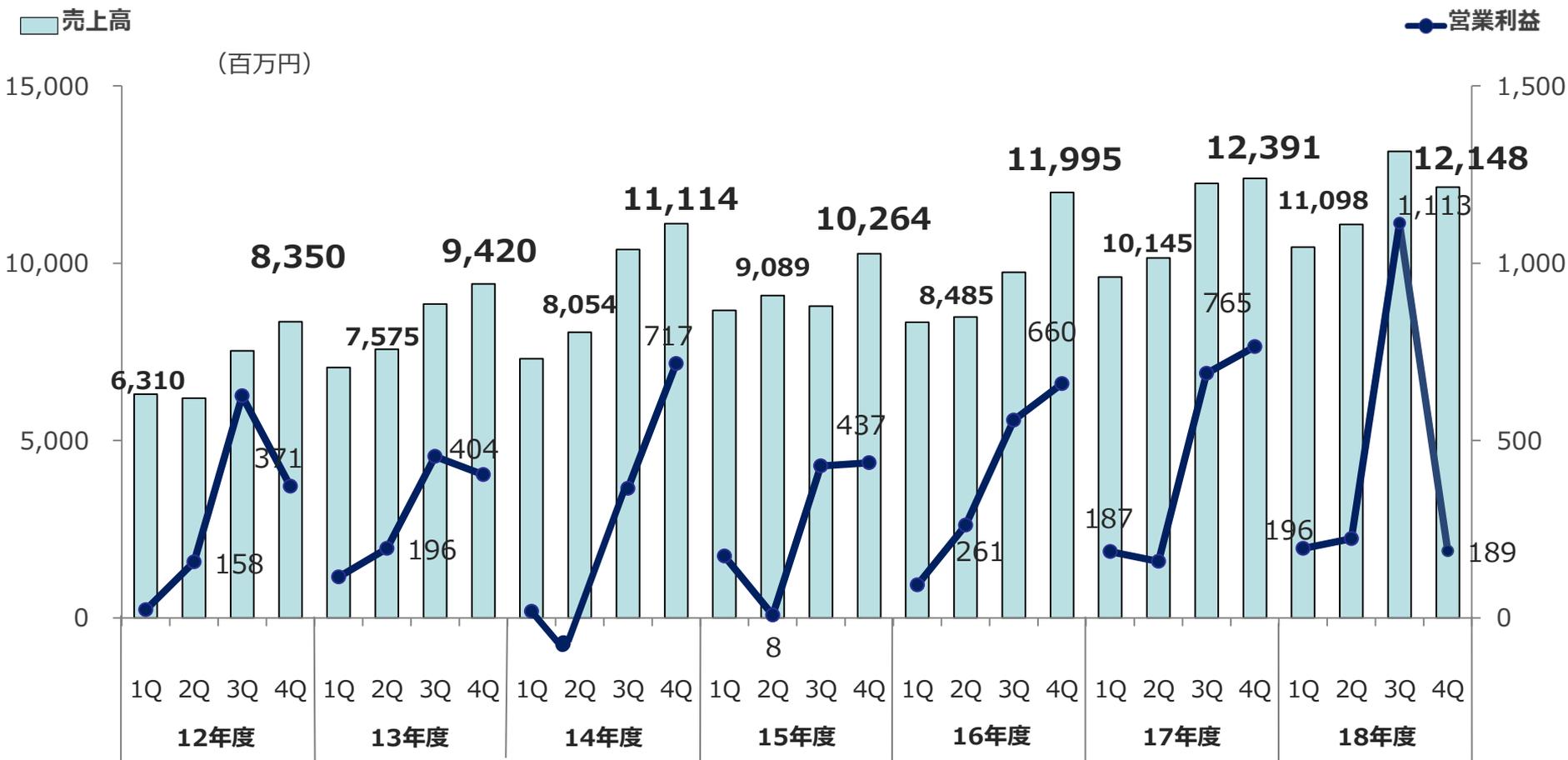
国内外における自動車用電池の販売が好調に推移したことなどにより増収も、インドネシア子会社（FIBM）の低調により減益

売上高：	46,858 百万円	前年度比	5.5% （2,459百万円）増
営業利益：	1,721 百万円	前年度比	4.3% （78百万円）減



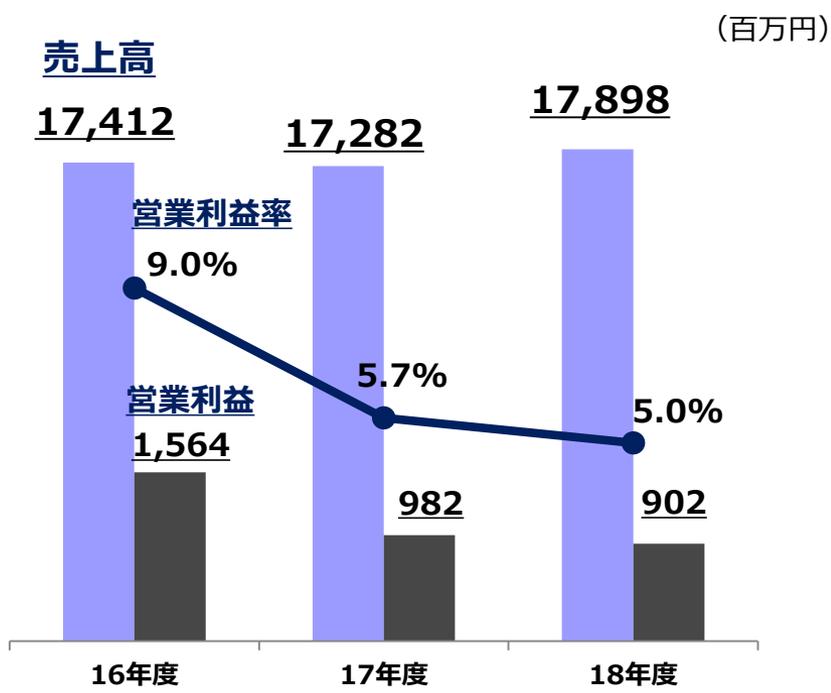
自動車セグメント 決算概況_四半期

- 国内外における自動車用電池の販売が好調に推移したことなどにより増収も、インドネシア子会社（FIBM）の低調により減益
- 4Q減益は、FIBMでの会計処理によるもの



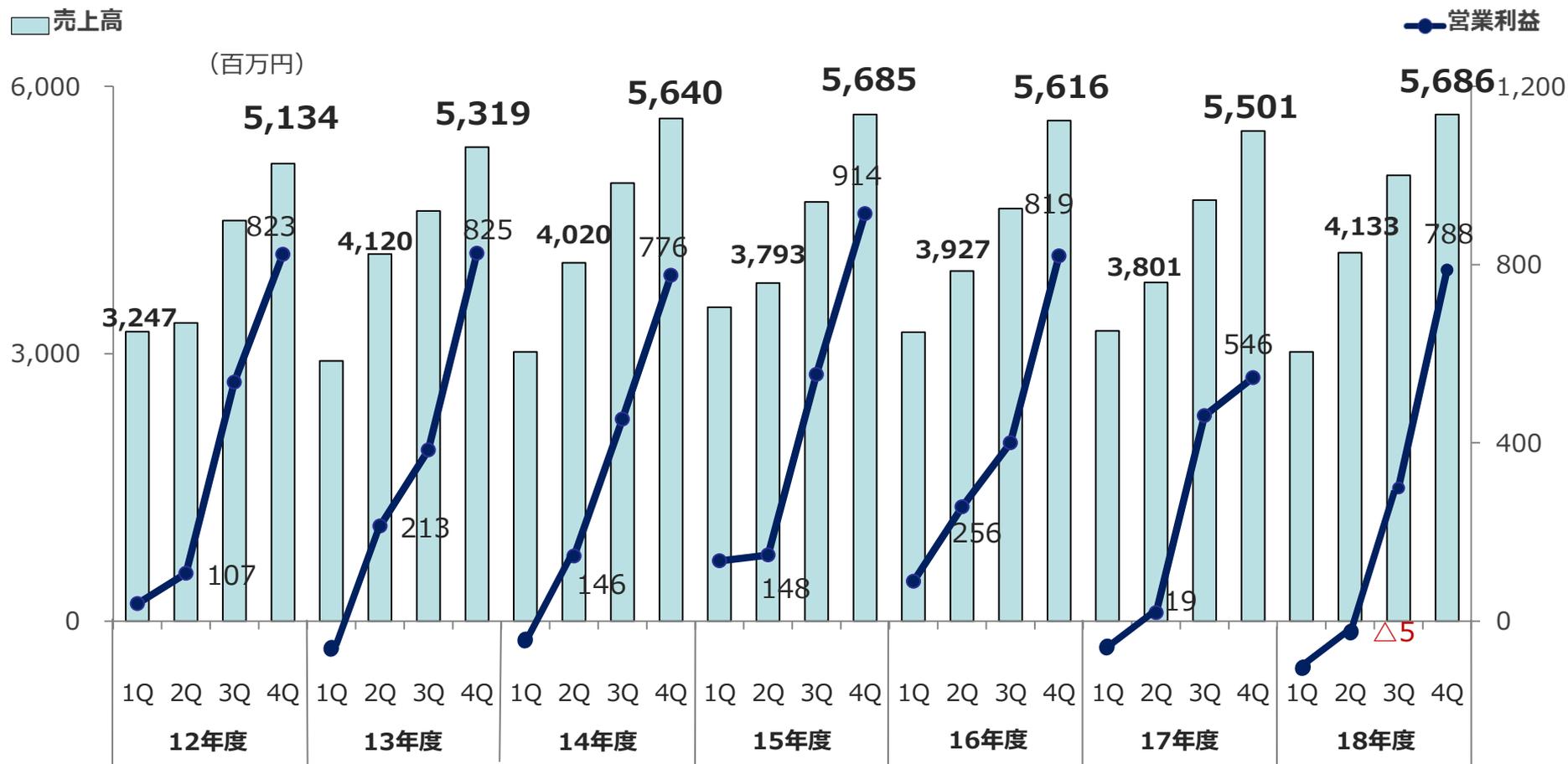
産業セグメント 決算概況

産業 セグメント	売上高は微増も、物流コストの上昇や製品構成の変化による原価率上昇などにより減益			
	売上高：	17,898 百万円	前年度比	3.6% (615百万円) 増
	営業利益：	902 百万円	前年度比	8.1% (79百万円) 減



産業セグメント 決算概況_四半期

■ 上期までの中国鉄道向け好調などで微増収も、物流コストの上昇や製品構成の変化による原価率上昇などにより減益



海外売上高

- 12年度ごろからのタイ子会社の安定化・事業拡大などにより、海外売上高は増加傾向
- 18年度はタイ子会社（SFC）の堅調な推移に加え、インドネシア子会社（FIBM）の売上増により前年度比で比率UP



キャッシュフローの状況

(百万円)



	17年度	18年度
営業活動によるCF	2,375	4,936
税金等調整前当期純利益	2,804	2,697
減価償却費	2,543	2,587
売上債権の増減額	△801	203
たな卸資産の増減額	△774	△147
仕入債務の増減額	△44	525
法人税等の支払額	△1,266	△1,131
投資活動によるCF	△2,440	△1,936
有形固定資産の取得による支出	△2,511	△1,788
フリーCF	△65	3,000

	17年度	18年度
財務活動によるCF	△1,530	△2,197
短期借入金の純増減額	△1,799	△100
長期借入れによる収入	1,400	100
長期借入金の返済による支出	△2,092	△1,685
配当金の支払額	△295	△327
非支配株主からの払込みによる収入	1,644	—
■ 現金及び現金同等物の増減額	△1,540	773
■ 現金及び現金同等物の期末残高	4,194	4,968

貸借対照表 (2019.3末時点)

- 有形固定資産は、大きな投資も無く、減価償却により10億円減少
- 固定負債は、長期借入金から1年以内返済の長期借入金（短期借入金）への振替等により29億円減少

(百万円)

資産	18.3 末	19.3 末	増減額
流動資産	24,493	24,959	+466
現金及び預金等	4,194	4,968	+774
受取手形及び 売掛金等	12,369	12,117	△252
たな卸資産	7,172	7,189	+17
固定資産	30,501	29,307	△1,194
有形固定資産	24,854	23,855	△999
無形固定資産	186	149	△37
投資その他の資産	5,460	5,302	△158
資産合計	54,994	54,266	△728

負債・純資産	18.3 末	19.3 末	増減額
流動負債	14,198	15,845	+1,647
支払手形及び 買掛金等	6,227	6,728	+501
短期借入金	4,077	4,753	+676
固定負債	15,639	12,663	△2,976
長期借入金	6,459	3,788	△2,671
退職給付に係る 負債	7,049	6,888	△161
純資産	25,156	25,758	+602
利益剰余金	19,029	20,969	+1,940
負債純資産合計	54,994	54,266	△728

02

19年度 業績予想

19年度 業績予想

- 19年度の業績予想は、売上高 665億円、営業利益 33億円。増収増益予想
- 産業事業とタイ子会社（SFC）の増収増益が業績牽引する計画

(百万円)

	18年度 実績			19年度 予想	増減額 (b-a)	増減率
	上期	下期	通期(a)	通期(b)		
売上高	28,182	35,417	63,600	66,500	+2,900	+4.6%
営業利益	314	2,486	2,801	3,300	+499	+17.8%
経常利益	312	2,386	2,698	3,100	+402	+14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	335	1,931	2,267	2,400	+133	+5.8%
海外売上高比率	38.3%	33.3%	35.5%	—		

為替レート

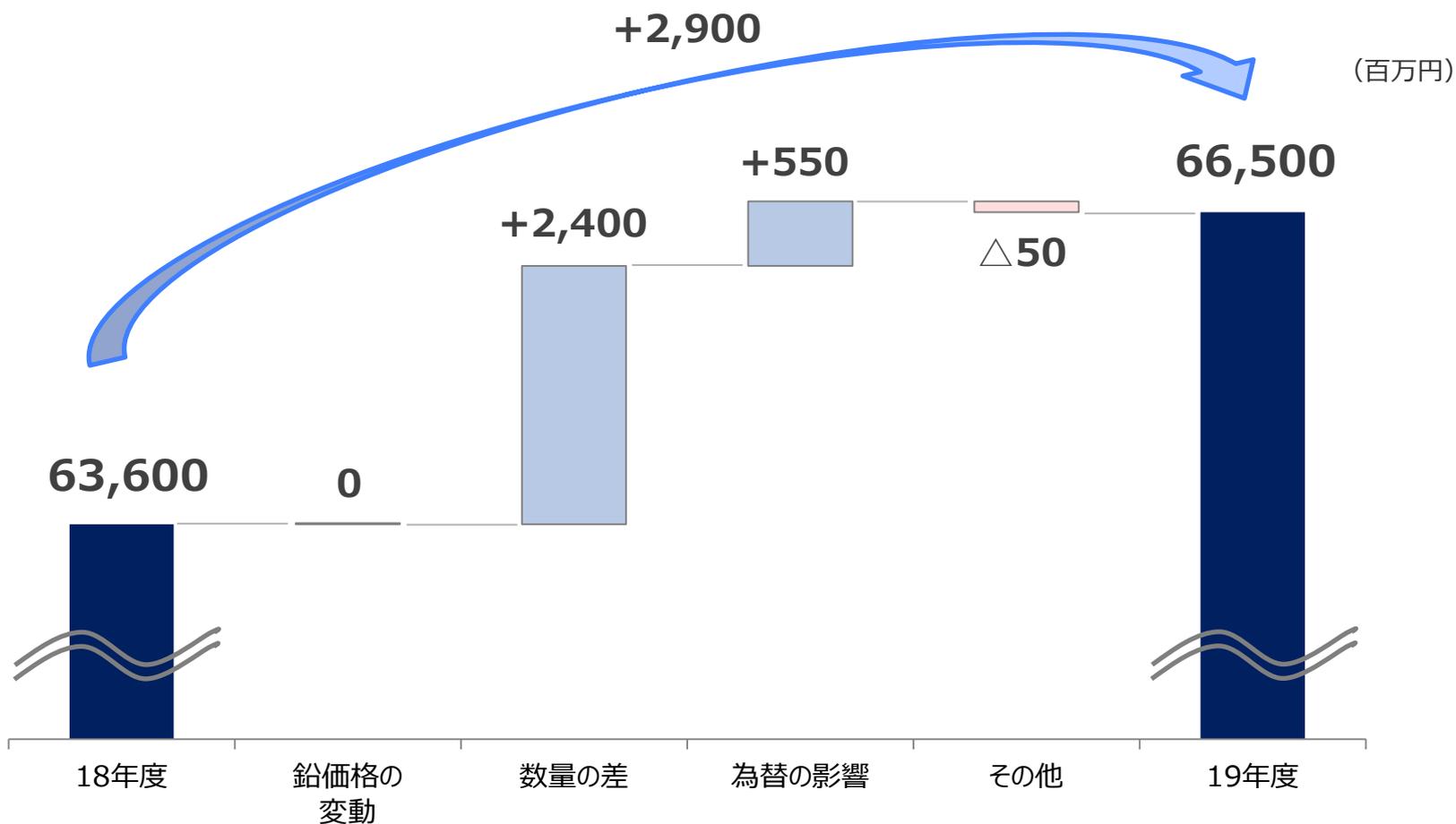
- ・18年度（期末） 1バーツ=3.41円 100インドネシアルピア=0.77円
- ・19年度（前提） 1バーツ=3.50円 100インドネシアルピア=0.76円

鉛建値

- ・18年度（平均） 298.9千円/t
- ・19年度（前提） 295.0千円/t

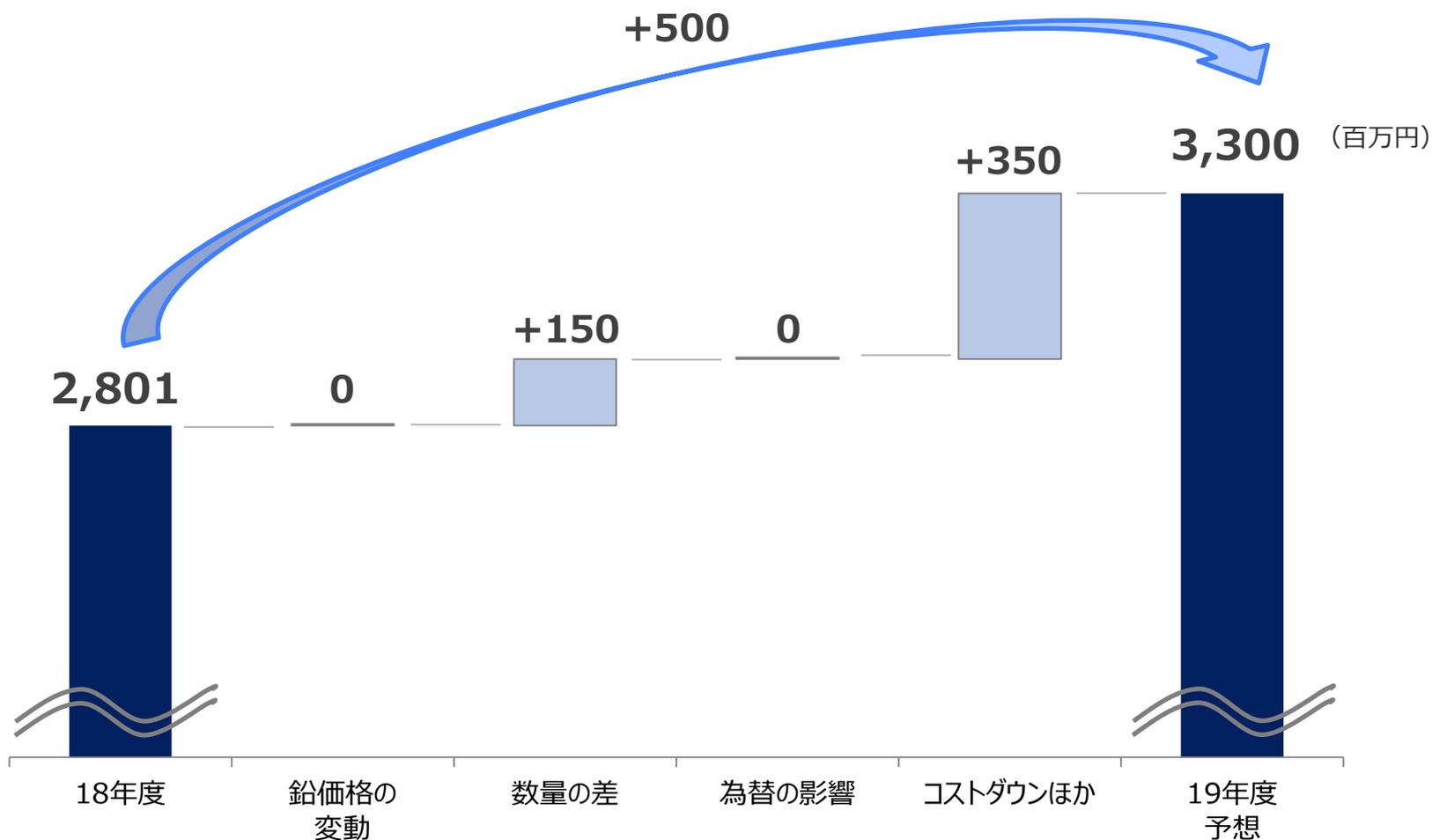
売上高 増減分析

■ 産業事業とタイ子会社（SFC）の増収増益が業績牽引する計画



営業利益 増減分析

■ 産業事業とタイ子会社（SFC）の増収増益が業績牽引する計画



19年度 業績予想達成のための施策

自動車	日本	⇒	● 利益を最大化する 最適なプロダクトミックス （IS、補機、EN）の実現
			● いわき投資効果の最大化
	タイ (SFC)	⇒	● ASEANへの輸出強化
			● 設備能力の最大化による コスト競争力 の強化
	インドネシア (FIBM)	⇒	● 日本からの人員派遣・駐在により、 製造・販売・経営管理に至るまで徹底フォロー ⇒ 早期の安定化・戦力化
産業	日本	⇒	● 新商品 （FMU、FCR）の積極投入&新規開拓、点検・工事のセット拡販
			● 設備投資による効率化 ⇒ コスト競争力 の強化
	他	⇒	● 新規需要分野・成長市場への グローバル展開強化 ・事業化

配当の状況

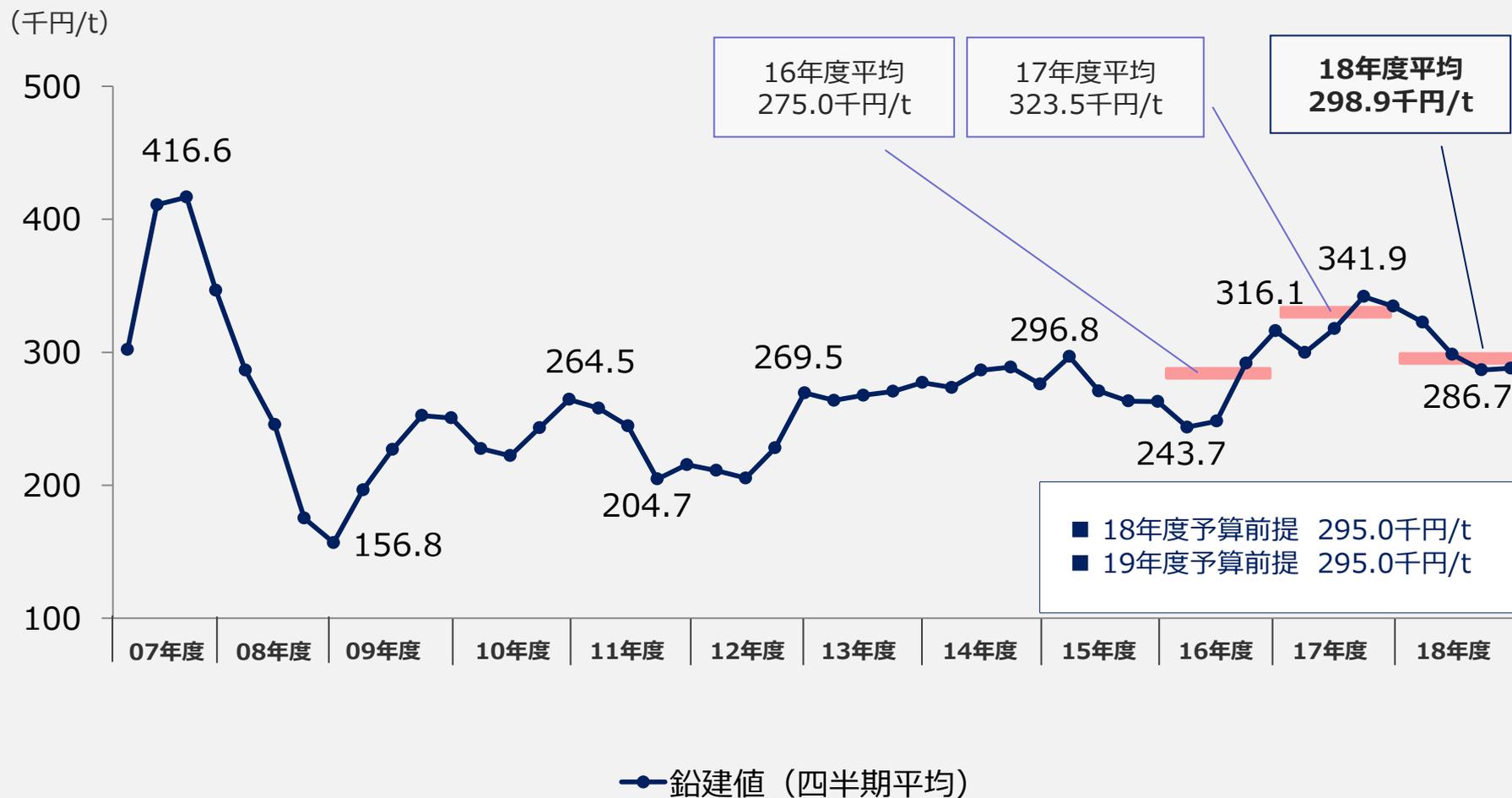
- 2019年度は、従来の傾向よりもさらに配当金を増額
- 成長性と財務健全性との最適バランスを追求し、安定配当による株主還元の実現を目指す

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度 (予想)
ROE (%)	11.1	13.4	12.2	9.7	9.4	—
1株当たり配当金 (円)	7.00	8.00	9.00	10.00	11.00	13.00
配当金総額 (百万円)	229	262	295	327	360	426
配当性向 (%)	13.1	11.1	12.4	15.3	15.9	17.8

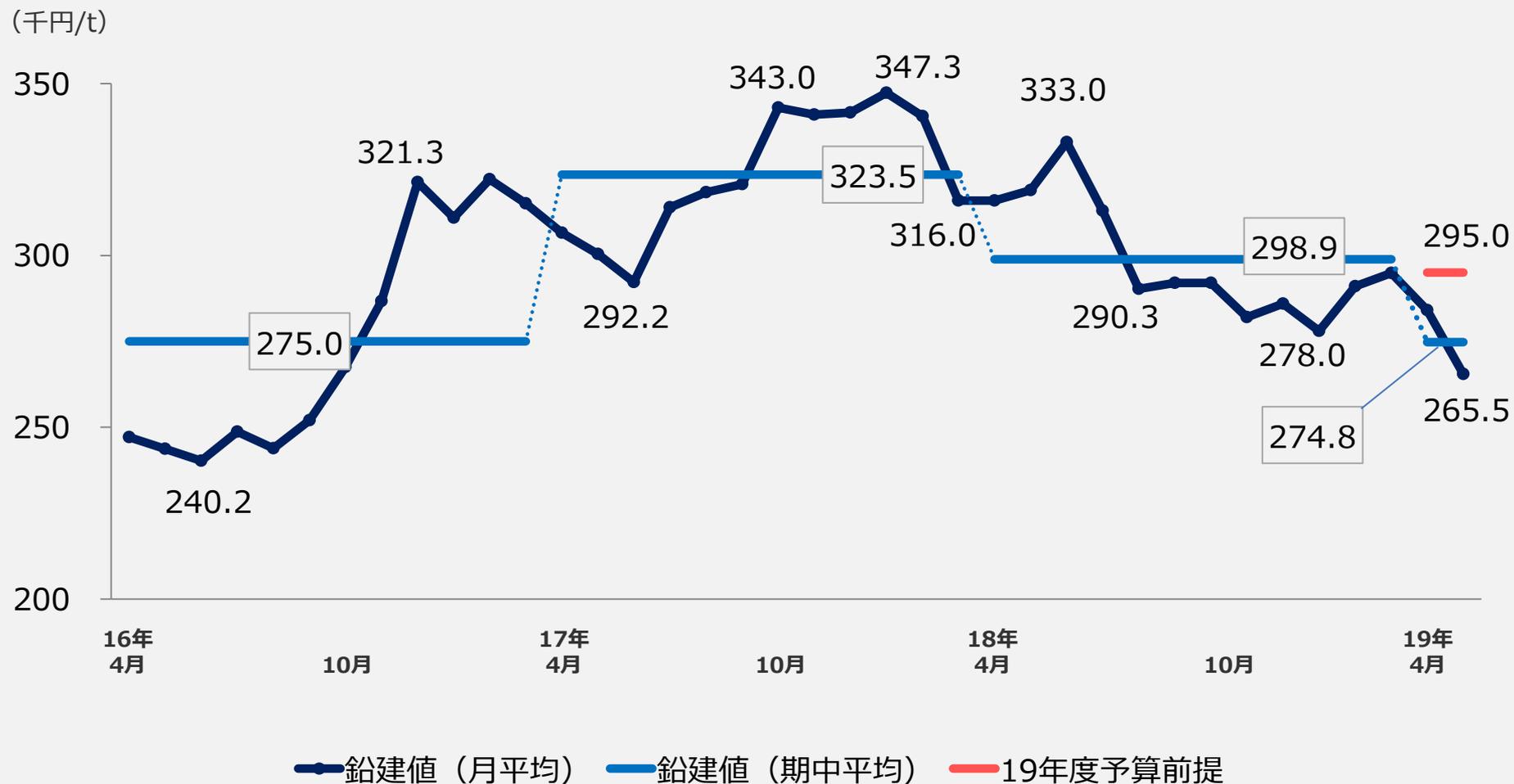
03

補足資料

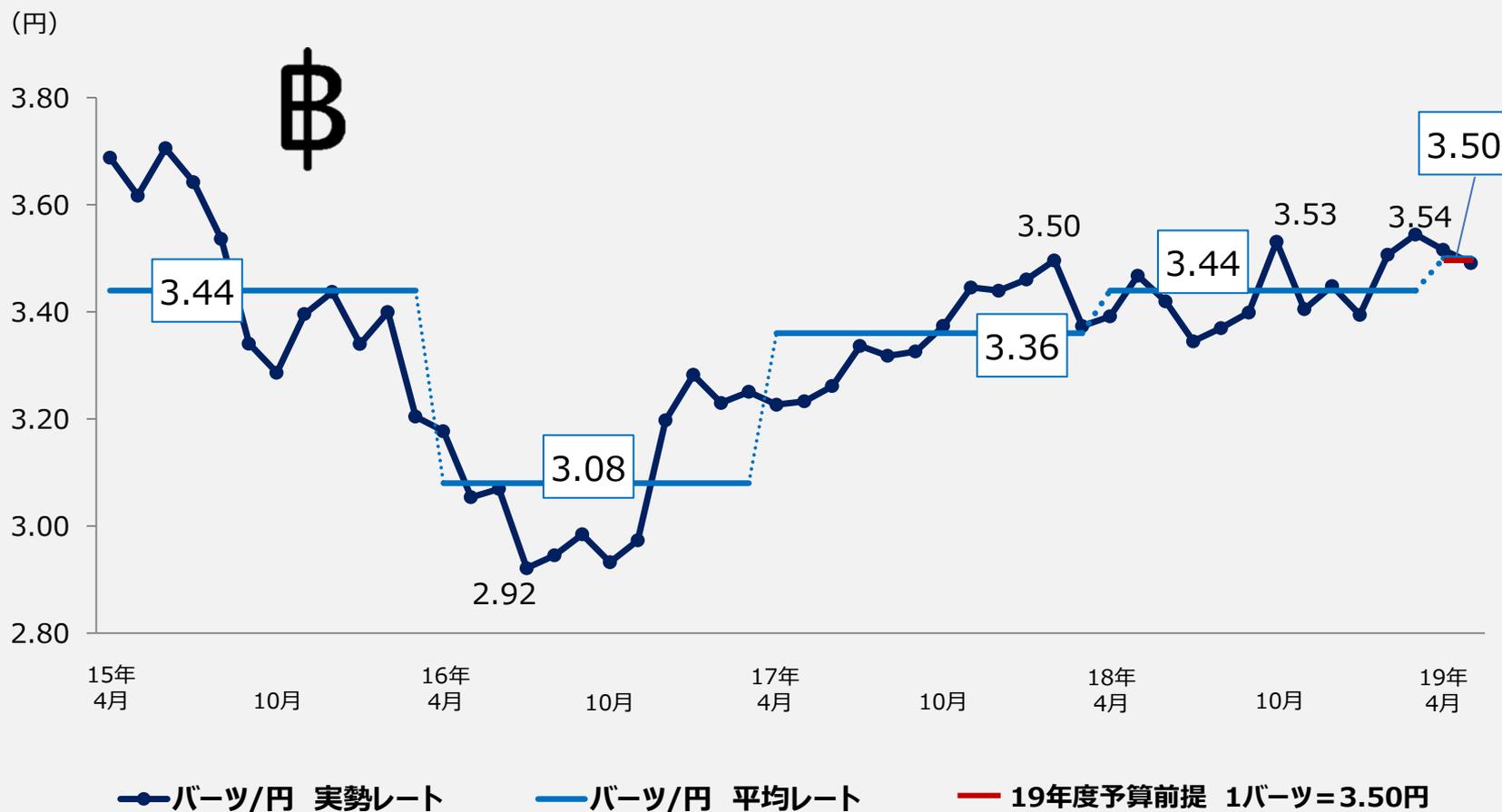
鉛建値推移 (07~18年度)



鉛建値推移 (16年4月~19年5月)



為替レートの推移



株価推移

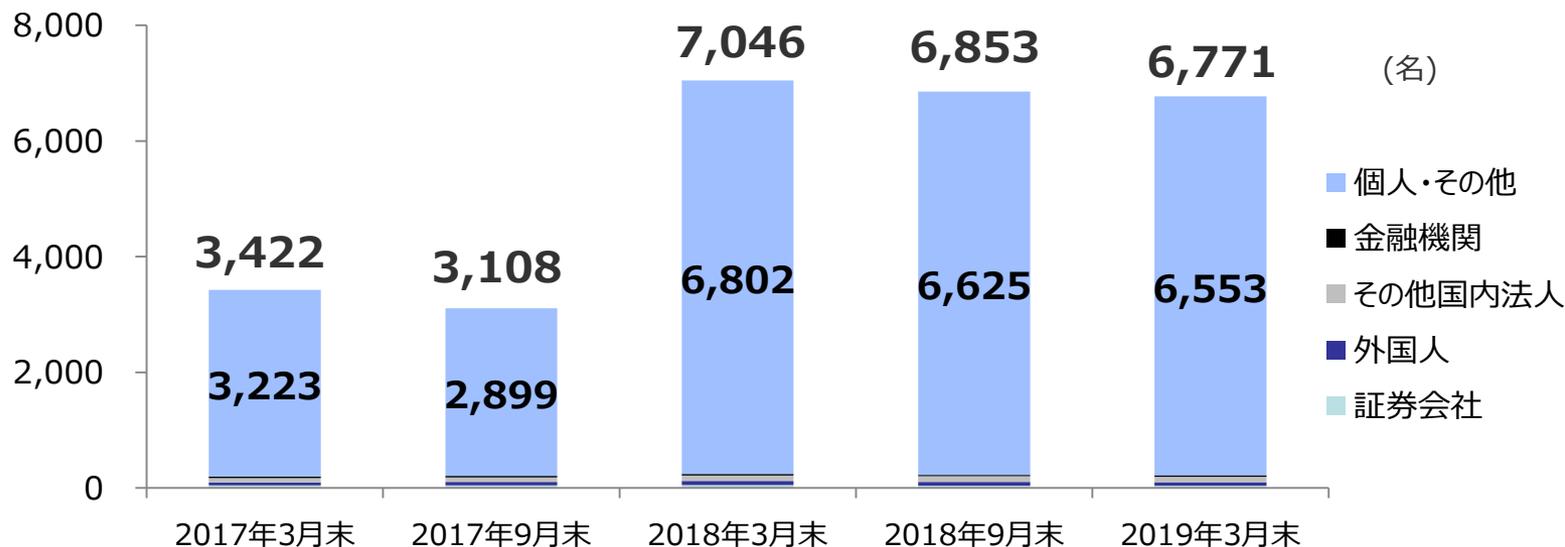
■ 2017.10.1より単元株式数を1,000株から100株に変更



株式情報

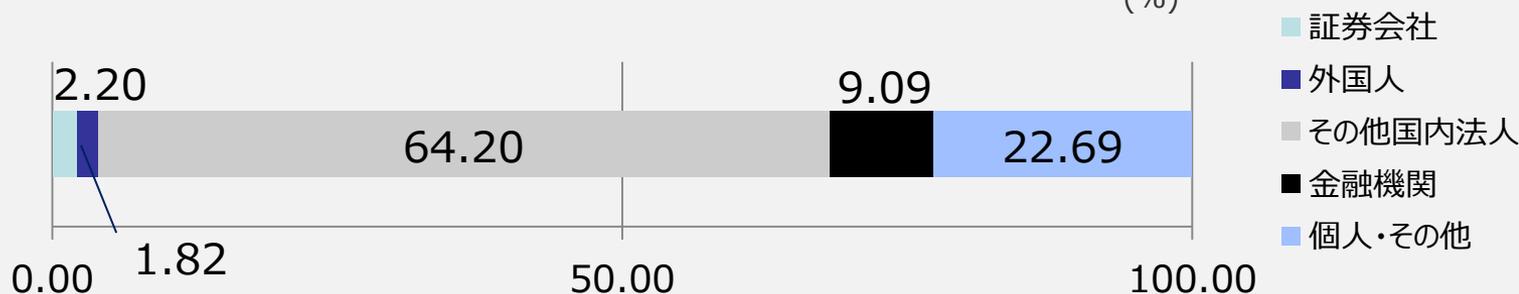
■ 株主数*の推移

*自己名義株式除く



■ 所有者別持株比率* (2019年3月末時点)

(%)



業績データ①

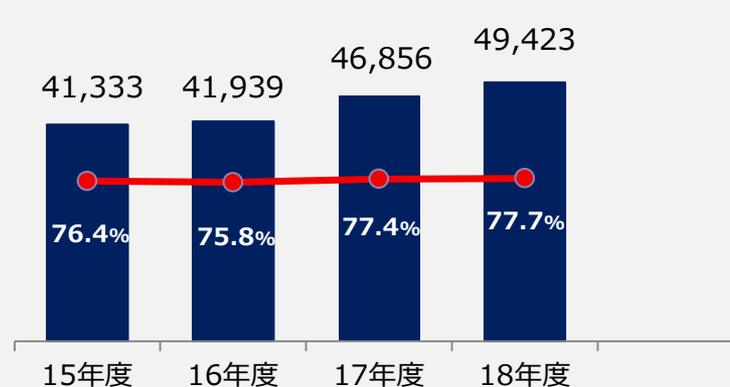
売上高

(百万円)



売上原価・売上原価率

(百万円)



営業利益・営業利益率

(百万円)



経常利益・経常利益率

(百万円)



業績データ②

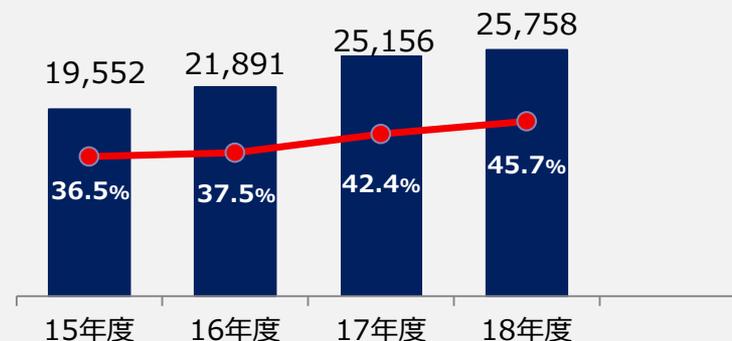
親会社株主に帰属する当期純利益・ROE

(百万円)



純資産・自己資本比率

(百万円)



ネット有利子負債・ネットD/Eレシオ

(百万円)



1株当たり当期純利益

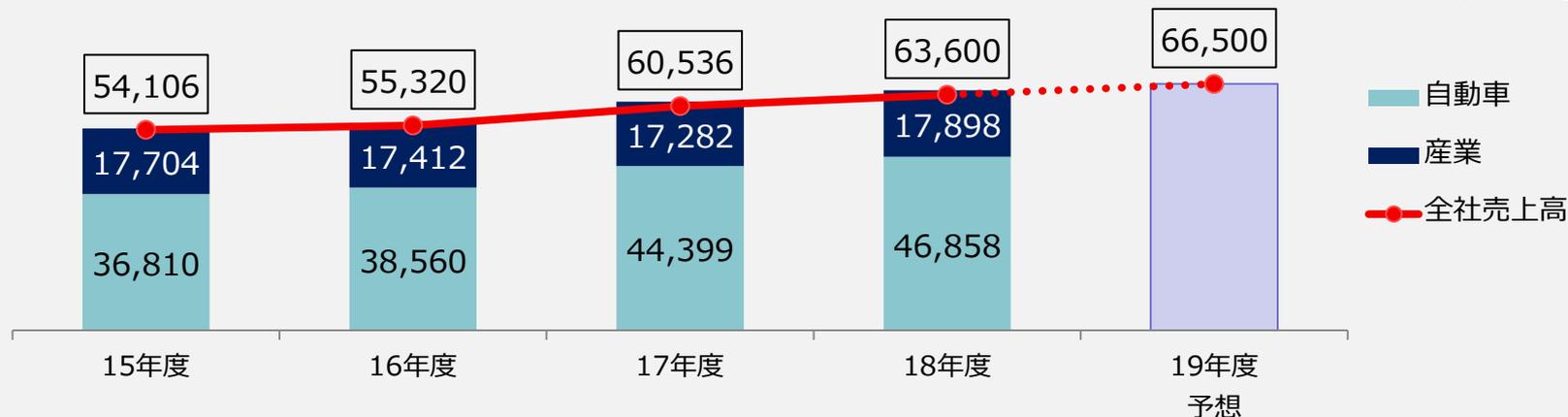
(円)



業績データ③

セグメント別 売上高の推移

(百万円)



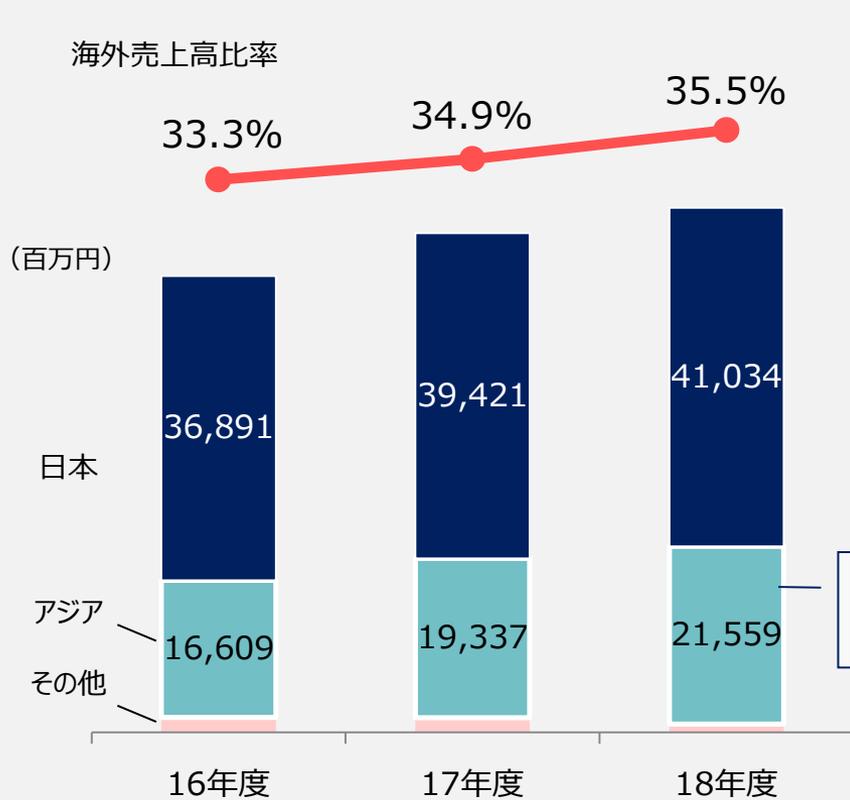
セグメント利益の推移



* セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含みます。
セグメント利益は営業利益（のれん償却前）ベースの数値です。

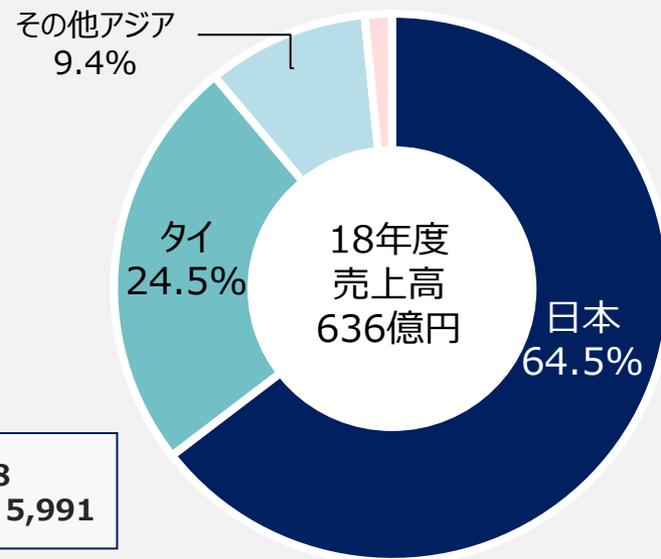
業績データ④

■ 地域別売上高



タイ : 15,568
 その他アジア : 5,991

地域別売上高比率



※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています

鉛蓄電池市場 グローバルシェア

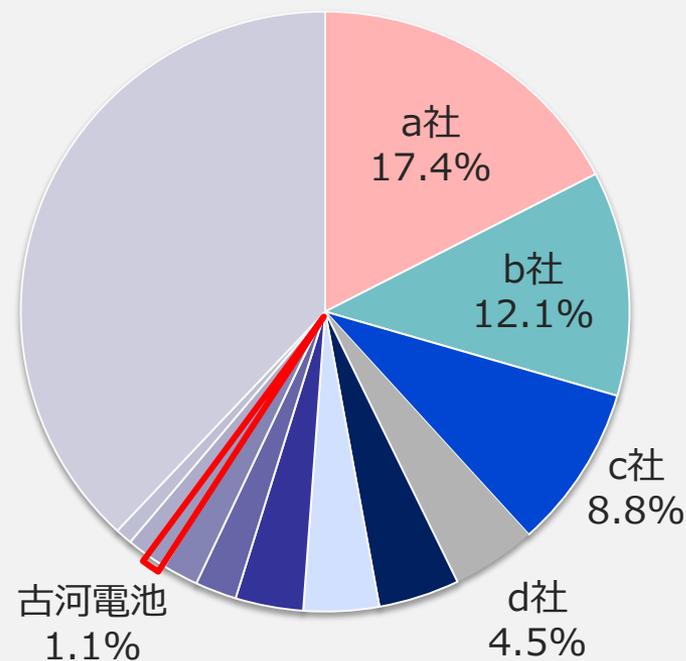
■ 生産金額ベース

(億円)

		2017年 実績	シェア
1	A社	6,160	14.8 %
2	B社	3,400	8.2 %
3	C社	3,000	7.2 %
4	D社	2,500	6.0 %
5	E社	1,650	4.0 %
⋮		⋮	⋮
⋮		⋮	⋮
10	古河電池	500	1.2 %
		⋮	⋮
	その他	19,210	46.1 %
	合計	41,650	100.0 %

■ 生産数量ベース

※ 2017年実績



* 出典：富士経済「2018 電池関連市場実態総調査 No.2」

将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・為替相場の変動による影響
- ・主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・海外における政治的および社会的リスク
- ・取引先の業績悪化等
- ・自然災害の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

(注) 当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。年度表記について、17年度は2018年3月期、18年度は2019年3月期（以下同様）を表しています。